

令和7年9月4日

JA みづま

久留米普及指導センター

【水稻】

1. 生育概況

梅雨明け以降、気温が高く藻類の発生が多かったため、一部で初期生育が抑制されたものの、全体的に生育順調で分けつも多くなっています。また、出穂期は昨年と同程度かやや遅い見込みとなっています。

出穂期前後7日間（穂ばらみ～開花期）は水が切れないようにし、開花期以降は間断かん水を徹底し、根の活力維持に努めましょう。

2. 病虫害防除

現在のところ、いもち病、紋枯病、ウンカの発生は少ないです。ただし、ウンカについては8月10日に飛来があり、10月以降急激に増殖することもありますので、圃場の観察をよく行いましょう。

☆下記の基幹防除の徹底と、病虫害の発生状況に応じて補正防除を行いましょう。

品種	適用 病虫害	散布時期（目安）	使用する農薬と量（10a当り）	使用時期 収穫前日数
夢一献 ヒノヒカリ	カメムシ類 ウカ類 コブメカガ	9月3日頃	トレボン粉剤 DL 4kg	7日前まで
			トレボン乳剤 1,000 倍 （カメムシ類は 2,000 倍）	14 日前まで
ヒヨクモチ	いもち病 ウカ類 カメムシ類 コブメカガ	9月12日頃 ※ダブ ルカットレボソ 7077 ルは穂揃期まで	ビームトレボン粉剤 5DL 4kg	7日前まで
			ダブ ルカットレボソ7077 ル 1,000 倍※	穂揃期まで
※補正防除 （全品種 共通）	ウカ類 カメムシ類	多発時に散布	アルバリリン粉剤 DL 3kg	7日前まで
			スタークルメイト液剤 10 1,000 倍	7日前まで

※カメムシ防除の目安：穂揃期（8～9割が出穂）。多発の場合はその7～10日後に補正防除。

※液剤を使用する際の散布水量は、10a当たり100リットルです。

※ウンカ類への効果を高めるため、防除作業は湛水状態で行います。



稲の株元に生息しているトビイロウンカの様子

トビイロウンカの要防除水準（中老齢幼虫の合計数）

8/10 を主要飛来とすると…

・飛来後第二世代幼虫：

100 株あたり 100 頭以上（10 月頃）

※稲の株元に生息しているウンカを確認し、
補正防除の目安としてください。

【大豆】

1. 生育概況

適期に播種が行われ、全体的に生育は順調です。今後は病害虫の発生状況に注意し、適期防除を行いきましょう。

2. 病害虫防除

- ・現在のところ、ハスモンヨトウの発生は一部でみられる状況です。ふ化幼虫が群集している白変葉があれば早めに手取り除去を行いきましょう。また、下表を参考に一斉防除を行ってください。

①「カメムシ、紫斑病、ハスモンヨトウ」対策（3剤混合防除）

- ・カメムシの発生状況に合わせて開花後 20～40 日頃に紫斑病、ハスモンヨトウの同時防除を必ず行いましょう。

散布時期（目安）	対象 病害虫	使用する農薬と希釈倍数 ※希釈水量は 10a 当り 100～300L		使用時期 収穫前日数
9月18日頃	ハスモン ヨトウ	3剤 混合	プロフレア SC 4,000 倍	前日まで
	カメムシ類		アルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍	7日前まで
	紫斑病		トップジンM水和剤 1,000～1,500 倍	14 日前まで

②「カメムシ対策」

- ・カメムシ類が多い場合は3剤混合防除の7～10日後頃を目安に防除を行う。

散布時期（目安）	対象病害虫	使用する農薬と希釈倍数 ※希釈水量は 10a 当り 100～300L	使用時期 収穫前日数
9月25日～9月28日	カメムシ類	アルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍	7日前まで

3. 乾燥対策

- ・しばらく降雨がないと予想される場合は早めに本暗渠の栓を閉めておく。
（大雨が予想される場合は、事前に暗渠栓を開けるなど臨機応変に対応する。）
- ・大豆は、開花始めから莢実の伸長肥大期までが、乾燥に最も弱い時期です。
特にこの時期は注意し、必要に応じて畝間かん水を実施しましょう。

※畝間かん水のタイミングは、晴天が7日位続き、畝間の土壌表面が白乾し始めた頃。
かん水の量は、走らせる程度。できるだけ夕方～夜間に行う。

☆【除草】水稲、大豆

水稲作付圃場ではヒエやアゼガヤが見られ、大豆作付圃場ではアサガオ、ホソアオゲイトウ、ホオズキ類が見られます。雑草が大きくなった現時点では有効な除草剤はありません。雑草が種子をつける前に可能な限り手取りで除草し、来年の発生を抑制しましょう。



アゼガヤ



帰化アサガオ類



ホソアオゲイトウ



ヒロハフクリンホズキ

- 農薬の使用量、使用時期は暦を参照してください
- 農薬のラベルに記載されている有効期限及び登録内容を確認して散布しましょう
- 農薬の隣接作物、宅地への飛散を防止しましょう